

社会貢献活動 取組み事例集



目次

I はじめに	1
II 生保労連・各組合の具体的な取組み	2
1 地域社会への貢献	
① 地域の安全を見守る運動（見守り運動）	2
② その他の取組み（オレンジリボン運動）	5
2 人道的支援に関する取組み	
① 連合・愛のカンパ	6
② あしながPウォーク 10	7
③ 書き損じハガキ等回収活動	8
④ その他の取組み	10
3 環境保全に関する取組み	
① 連合エコライフ 21	12
② エコキャップ回収運動	13
③ その他の取組み	15
III おわりに	17





I | はじめに

東日本大震災以降、地域や社会における絆・つながりが見直される中、社会貢献活動の重要性が高まっています。地域社会は、私たち生保産業で働く者にとって大切な活動基盤であることから、一人ひとりのさらなる役割発揮が期待されています。

一方で、世界に目を向けると、昨今、開発途上国での貧困や飢餓の問題が一層深刻になっています。国際協力NGOセンターによると、世界人口の約5人に1人が1日1ドル未満で生活するという極度の貧困のもとで、約7人に1人が飢餓に苦しんでいます。そのため、国際社会では開発途上国への支援を必要としています。

さらに、温室効果ガスの増加による地球温暖化が一層深刻になっています。IPCC(気候変動における政府間パネル)の報告では、1986年から2005年の平均を基準にすると、2100年までに世界の平均気温が最大4.8℃、海面が最大82cm上昇すると予測されています。温室効果ガス排出削減のために、わたしたち一人ひとりがライフスタイルを変革していくことが求められています。

生保労連では2009年の「Newチャレンジ宣言」において、今後の労連運動の方向性を示し、以下のような提言を行っています。

- 組合員数の規模や生保営業の特性を生かした地域・社会への貢献活動、環境問題への取り組みの推進
- 組合員が行う社会貢献活動・ボランティア活動に対する支援などを通じた産業全体の社会貢献意識の醸成

こうした考え方にもとづき、生保労連では各組合ならびに連合等の関係諸団体と連携し、社会貢献活動を推進しています。

本事例集はその一環として、生保労連や各組合の取り組みを紹介したものであり、社会貢献活動の一層の充実・強化をめざすものです。社会貢献活動を推進するうえでの一助として、本事例集をお役立ていただければ幸いです。



II 生保労連・各組合の具体的な取組み

1 地域社会への貢献

地域で暮らす人々同士で声を掛け合うことが減りつつある中、フェイス・トゥ・フェイスにより育んできた生保産業の組合員と地域の人々とのつながりは、東日本大震災以降、改めて見直されるようになりました。昨今は、子どもや高齢者に関する事件・事故も増えており、組合員に対する社会からの期待はますます高まっています。

このような中、生保労連では、地域に根ざした社会貢献の取組みを行っています。

① 地域の安全を見守る運動(見守り運動)

生保労連では2006年より、地域における組合員のさらなる役割発揮の観点から、営業職員による日々の活動を通じた「子どもの命・安全を守る取組み(屋外にいる子どもを対象としたパトロール運動)」を推進してきました。

そして2012年からは、屋外にいる子どもだけでなく、地域の子どもの女性、高齢者等も見守りの対象とした「地域の安全を見守る運動(見守り運動)」を推進しています。

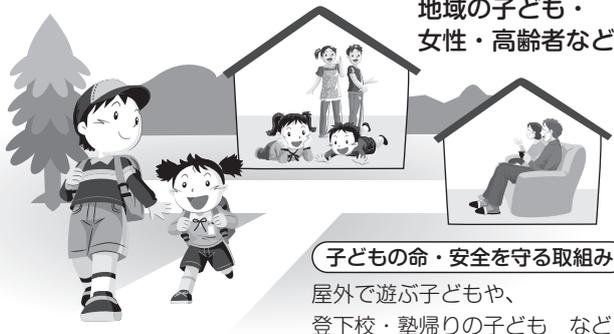
見守り運動とは？

日々の生活や仕事の中で、ちょっとした「目配り・気配り・心配り」をすることで、地域の安全に貢献していこうというものです。例えば、身近で以下のような異変を感じるがあった場合、適切な機関に連携できるよう、日頃から緊急連絡先や対処方法等を確認しておくことを呼びかけています。

- 不審者が子どもに声をかけている
- 郵便受けに新聞がたまっている
- 子どもや女性が暴力を受けている疑いがある
- 近所に住む高齢者を最近見かけない
- 隣の家で物音がする

など

地域の安全を見守る運動





高まる見守り運動の必要性

近年、子どもや女性に対する虐待や暴力、高齢者の孤立死等が増加しています。警察庁によると、児童虐待事件の検挙件数は、2013年は若干減少したものの、依然、増加傾向にあります(表1)。また、配偶者からの暴力等への対応件数は、この数年で約2倍に増加しています(表2)。さらに、東京23区内の一人暮らしの高齢者(65歳以上)の孤立死は、毎年2,000件を超えています(表3)。このような背景から、子どもや女性、高齢者に対する見守り運動の必要性が一層高まっています。

表1 児童虐待事件の検挙数

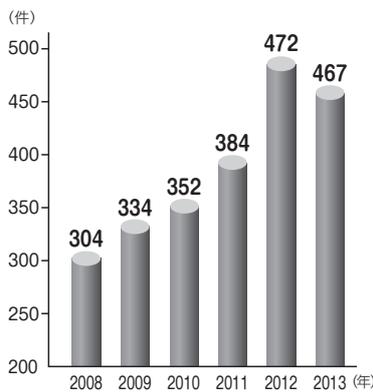


表2 配偶者からの暴力事案の対応状況

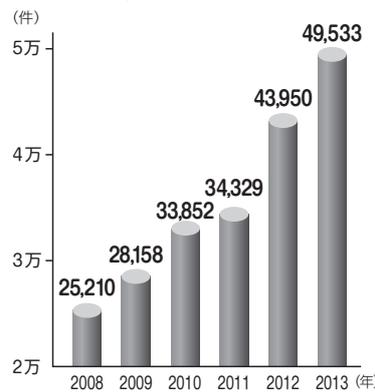
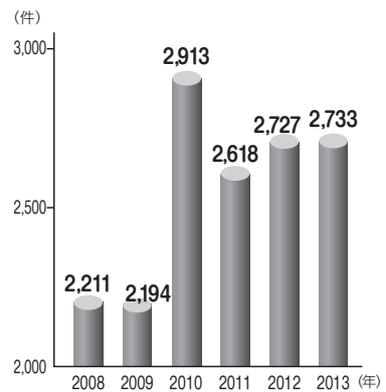


表3 孤立死の推移



【出所】表1:警察庁「平成25年中における少年の補導及び保護の概況」

表2:警察庁「平成25年中のストーカー事案及び配偶者からの暴力事件の対応状況について」

表3:東京都監察医務院調査。数字は東京23区内で自宅で死亡した65歳以上一人暮らしの者

取組みの推進にあたって

生保労連では、取組みを呼びかけるポスターや、自治体の専用窓口等の緊急連絡先を記載して常時携帯できるカードを作成し、各組合に取組みの推進を呼びかけています。



▲カード▶



▲ポスター

※ポスター・カードは生保労連ウェブページからダウンロードできます。(http://www.liu.or.jp)



各組合の取組み

子どもや高齢者等を対象とした見守り運動を独自に実施している組合もあります。

朝日生命労働組合

- 2006年11月から地域の子どもの安全を守るため、組合員・職員によるパトロールを実施

日本生命労働組合

- 2006年から「ふれあいパトロール活動」として、「目配り、気配り、心配り」活動を展開



防犯ステッカー▶

第一生命労働組合

- 2007年から一部の支部で、組合員がロゴシールを掲示しパトロールを実施



ロゴシール▶

三井生命労働組合

- 2006年10月から地域社会・地域住民への貢献と、安全・安心な街づくりの推進をめざして「地域の目カードストラップ」を常時携帯し、「こつこつ きちんと 地域の目」(全社防犯運動)を展開



地域の目カードストラップ▶

明治安田生命労働組合

- 子どもたちが登下校中に事件にあう事態を防ぐため、2006年6月から「子どもの命・安全を守る」活動を実施
- 2014年9月から「子どもの命・安全を守る」活動に「ご高齢者等の見守り」活動を加え、「地域を見守る」社会貢献活動として全国の支社・営業所等で展開

「地域を見守る」社会貢献活動

子どもの命・安全を守る活動

- ◎助けを求めてきた子どもの保護
- ◎事件の発生を認知した時の110番通報
- ◎危険な場所、不審な車等を見かけた際の情報提供

- ▶取組み実施を呼びかけるポスター(右)
- ▶営業活動時にネームタグに入れて携帯するカード(左)

ご高齢者等の見守り活動

- ◎日々の営業活動を通じて、ご高齢者等の様子に「変わったこと」や「気づいたこと」があれば自治体等の窓口に連絡





他産業の取組み

他産業でも見守り運動に積極的に取り組んでいる企業があります。

ヤクルト

- ヤクルトレディが商品をお届けしながら、一人暮らしの高齢者の安否を確認したり、話し相手になる「愛の訪問活動」を1972年から続けています。現在、この活動は、地域の民生委員等の共感を呼び、さらには自治体をも動かして全国的に広がっています。

ヤマト運輸・佐川急便・西濃運輸

- 千葉県袖ヶ浦市が行う「高齢者見守りネットワーク」事業に協力し、配達員が集荷や配達で訪問した高齢者宅で新聞や郵便物が溜まっていたり、昼間でも雨戸を閉じているなどの異変に気付いた場合、市の高齢者支援課に連絡しています。

② その他の取組み(オレンジリボン運動)

生保労連では、見守り運動の推進に向け、地域や子どもに関する社会貢献活動への参画を呼びかけています。

オレンジリボン運動とは？

NPO法人児童虐待防止ネットワークによると、2012年度に全国の児童相談所での子どもへの虐待相談の処理件数は年間6万6千件、虐待による死亡事例は年間50件を超えています。

オレンジリボン運動とは、こうした状況に鑑み、多くの方に子どもへの虐待の現状と問題に関心を持ってもらい、市民のネットワークによる虐待のない社会を築くことを目的とした市民運動です。

子ども虐待防止のシンボルマークとしてのオレンジリボンを広めることで、子どもへの虐待をなくすことを呼びかけています。

※詳しくはオレンジリボン運動公式サイトをご確認ください。
(<http://www.orangeribbon.jp/>)

2014年公式ポスター▶



2 人道的支援に関する取組み

貧困や飢餓、難民等の問題が世界各地で深刻化する中、国連は格差是正に向けた取組みを進めており、連合やUNI(サービス産業の労働組合が加盟する国際労働組合組織)でもその趣旨に沿った活動を行っています。

生保労連でも各関係団体と連携しながら、国内外の人道的支援に取り組んでいます。

① 連合・愛のカンパ

生保労連では、連合・愛のカンパの趣旨に賛同し、かねてより取組みを行っています。連合の重点取組み期間に合わせ、例年10～12月に各組合へ協力を呼びかけています。

連合・愛のカンパとは？

1989年の連合発足以来、人権・貧困・天災等に対して人道的支援を行うことを目的に、組合員が全員参加で社会に貢献する活動として展開しています。

2013年は、1億896万7,530円のカンパ金が集まり、123団体に助成しました。

2014年版リーフレット▶



助成先団体の主な例	主な活動
NPO法人 「世界の子供たちにワクチンを日本委員会」	ミャンマー・ラオス等で子どものワクチン確保と感染症の完全予防支援のための募金・供与活動
NPO法人「幼い難民を考える会」	カンボジアでの保育事業、織物事業
アジア連帯委員会(CSA)	タイ・ラオス等への衣類援助活動、小学校建設活動
国連UNHCR協会	アジアの難民支援、募金活動、啓発活動

※昨今、日本国内や近隣諸国の台風被害・豪雨災害に対する支援金としても拠出されています。

★生保労連の取組み結果(過去3年間分)

	寄付金額	参加組合
2014年	773,595円	アクサ営・アクサ内・朝日・ジブラルタ・住友・協会・第一・大同内・大同労・太陽・フィナンシャル・日本・富国内・PGF・マニユライフ・三井・明治安田・労連本部
2013年	734,466円	アクサ営・朝日・ジブラルタ・住友・協会・第一・大同内・大同労・太陽・フィナンシャル・日本・富国内・PGF・マニユライフ・三井・明治安田・労連本部
2012年	600,000円	アクサ営・朝日・ジブラルタ・住友・協会・第一・大同内・大同労・太陽・フィナンシャル・日本・富国内・マニユライフ・三井・明治安田・労連本部



② あしながPウォーク10

生保労連では、病気や災害で親を亡くした遺児への奨学金貸与等の支援を行う「あしなが育英会」と、その姉妹組織である「あしながPウォーク10実行委員会」の活動趣旨に賛同し、あしながPウォーク10に参画しています。

毎年11月頃を中心に全国各地で開催されており、多数の組合員の方にご参加いただいています。

あしながPウォーク10とは？



最愛の親を交通事故で亡くした青年たちの交通遺児支援活動から始まった「あしなが運動」は、40年の歴史の中で災害、病気、そして自死遺児へと支援の輪を広げてきました。米国における歩くボランティア活動である「ウォークアメリカ」を参考とし、日本においても1991年より災害遺児の大学生らが「病気遺児の高校進学支援」を目的として「あしながPウォーク10」をスタートさせました。あしながPウォーク10のPとは、ギリシャ語の「Philanthropy(フィランソロピー、優しい人間愛)」の頭文字です。

Pウォーク当日は、日本と世界の遺児が抱える問題について考えながら、約10kmの道のりを歩きます。コース中に募金箱を設置し、集められた寄付は、アフリカ・ウガンダ遺児のためのTERAKOYA教室運営や、初等・中等教育の給付型奨学金として役立てられています。

第41回あしながPウォーク10(東京地区)には、第一労組・太陽内組・三井労組の本部の皆さんのほか、各支部の取組みとして多数の組合員の皆さんが参加し、遺児への支援について理解を深めました。



▲第一労組の皆さん



▲太陽内組の皆さん



▲三井労組の皆さん



③ 書き損じハガキ等回収活動

生保労連では2001年度より、国際協力NGOハンガー・フリー・ワールド(※)が実施する書き損じハガキ等回収活動に参画しており、例年、1～4月末の期間、各組合に協力を呼びかけています。

書き損じハガキ等回収活動とは？

ハンガー・フリー・ワールドが行う取組みの1つです。書き損じハガキや未使用のテレホンカード、外貨紙幣、商品券、中古CD・DVD・ゲームソフト等を集めた上で換金し、飢餓で苦しむ人々の支援に役立てられています。2014年は全体で1億4,066万2,910円(135組織と8万7,628名の個人が参加)の寄付が集まりました。



▲書き損じハガキ1枚がおかゆ1食分になります(写真提供:ハンガー・フリー・ワールド)

(※)ハンガー・フリー・ワールドとは？

飢餓のない世界を創ることを目的として1984年に発足した、日本に本部を置く国際協力NGOです。現在、海外ではバングラデシュ、ウガンダ、ベナン、ブルキナファソの4カ国で活動しています。

特定の思想、宗教ならびに政治的意思から完全に独立したNGO法人(非政府組織)で、特定非営利活動法人「国際協力NGOセンター」の正会員、経団連1%クラブの寄付対象組織となっています。

どの国で暮らしていても「飢餓のある世界」に暮らす一員として、世界の人々とともに行動することを呼びかけ、「共創協働」の理念のもと活動しています。



書き損じハガキや商品券等は、ハンガー・フリー・ワールド事務局で換金し、飢餓や貧困に直面する人々の自立支援や栄養改善等、飢餓のない世界を創るための活動に役立てられています。

支援国	支援内容
バングラデシュ	小学校の運営費、住民の自立に必要な栄養改善・保健衛生事業等
ウガンダ	子どもの栄養改善、協同組合支援、住民の自立に必要な教育事業等
ベナン	母子健康センターの運営費、栄養改善、住民に必要な教育事業等
ブルキナファソ	井戸の修繕、住民に必要な教育・栄養改善・保健衛生事業等



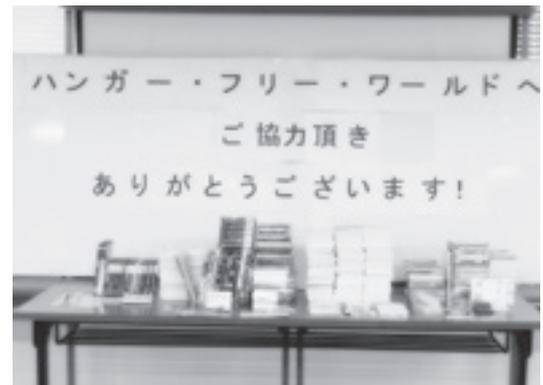
▲ベナンでの識字教育の様子
(写真提供:ハンガー・フリー・ワールド)



▲バングラデシュの小学校で学校給食を開始した様子
(写真提供:ハンガー・フリー・ワールド)

★生保労連の取り組み結果(過去3年間分)

	集計金額	参加組合
2014年	248,608円	住友・日本・富国内・マニユライフ・三井・明治安田・労連本部
2013年	75,017円	ジブラルタ・住友・第一・日本・富国内・太陽・三井・労連本部
2012年	141,337円	ジブラルタ・住友・第一・日本・富国内・PGF・三井・労連本部



④ その他の取組み

各組合の本部・支部でも寄付やカンパ等、人道的支援に関わる社会貢献活動が行われています。

組合名	取組み内容
アクサ営	●全国でボウリング大会を通じたチャリティー活動を実施(下段参照)
アクサ内	●地域に根差した社会的意義のある団体への寄付を目的とした「FITチャリティー・ラン」に、会社と共同で動員募集や広報を実施
朝 日	●毎年、創立月に組合・会社共同で募金活動を行い、社会福祉等の分野で活躍する団体に寄付 ●各支部で使用済切手・テレホンカード・未使用タオル・ブルタブ等の収集活動、募金活動、車いす寄付活動、献血活動、チャリティーバザー等を実施
ジブラルタ	●本部主体で、東日本大震災の被災校への支援を目的とした「ウェブヘルマーク運動」を実施
住 友	●一部の支部でお客さま訪問の際、未使用タオルを回収し社会福祉協議会へ寄付
第 一	●各支部で未使用タオル、チャリティーバザーの収益金、募金等を社会福祉協議会や福祉施設、児童養護施設等に寄付 ●一部の支部で、「小児がん」の子どもたちを支援するために「ゴールドリボン運動」を実施(次ページ参照)
大同内	●大同生命社会貢献の会と共催し、カレンダー等をチャリティーとして販売。収益金を「社会福祉法人身体障害者自立協会」に全額寄付 ●一部の分会と本部が共同で、自然災害被災地でのボランティア活動を実施
大同労	●各支部で使用済み切手の収集活動や箸袋、未使用タオルの回収活動等を実施
日 本	●2014年より、各支部で社会福祉施設等に対して福祉用具等が記載されたギフトカタログを寄贈する「はっぴいサポートカタログ寄贈活動」を実施 ●チャリティーオークションの収益金等を活用した支部独自の活動を展開
富国内	●日本臓器移植ネットワークの臓器提供意思表示カードを組合員に配布(次ページ参照)
明治安田	●労使共同で「あしながMYウォーク」を開催し、チャリティー募金を「あしなが育英会」や「東日本大震災ふくしまこども寄附金」等に寄付
富国外	●未使用タオルを回収し社会福祉協議会等へ寄付 ●日本臓器移植ネットワークの臓器提供意思表示カードを組合員に配布

全国チャリティーボウリング大会(アクサ営組)

アクサ生命営業社員労働組合では、毎年、「全国チャリティーボウリング大会」を開催しています。当初、本大会は誰でも手軽にできるスポーツであるボウリングを通じて、わが社で働く営業社員の相互の親睦と明るい職場作りを行うことを目的に実施しました。また、福祉産業に関連する生命保険業界で働くわたしたちが、少し

でも福祉に対する支援を行いたいという熱い思いから、社会貢献活動の一環として1ピン1円のチャリティー募金を実施し、各地区の社会福祉事業の団体等に寄付しています。会社の全面的な協力もあり、わたしたちの主要なマーケットである商工会議所や商工会の職員の方々にも多く参加いただき、大会を盛り上げています。

(ユニオンネット521号(2010年5月号)より ※一部修正)



▲ボウリング大会の様子



ゴールドリボン運動(第一労組)

第一生命労働組合ではDCR活動(Daiichi Community Relations)と銘打ち、1987年より社会貢献活動に継続的に取り組んでいます。例えば、豊洲・有楽町地区では、ゴールドリボン運動を行っています。本運動は、「小児がん」の子どもたちを支援するための募金や啓蒙活動を中心とした取組みです。組合員をはじめ、多くの方々の理解と支援をいただき、2013年度には185万円を寄付することができました。

「ゴールドリボン運動」を1人でも多くの方に知ってもらうために、ゴールドリボンを身に着け「目に見えるボランティア活動」をすることで、小児がん支援の普及に努めています。

また、継続的な活動が認められ、NPO法人ゴールドリボンネットワークより感謝状をいただきました。

(ユニオンネット571号《2014年7月号》より ※一部修正)



▲ゴールドリボンネットワークからの感謝状贈呈の様子

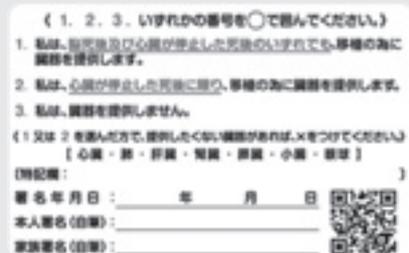
「ドナーカード所持」ならびに「骨髄バンク登録」推進運動(富国内組)

社会貢献活動の一環として、1997年より「臓器提供意思表示カード(ドナーカード)」所持の推進運動、さらに2002年より「骨髄バンク登録」の推進運動に取り組んでいます。

近年は医療技術の革新が目覚ましく、かつては有効な治療法がなかった患者さんでも移植医療によりその命が救われるケースが増えてきました。しかし、移植を希望する方の数と比較し、提供者(ドナー)の数は著しく不足しています。

私たち組合員は健康に深く関わる生命保険会社に勤務しており、健康に対する意識を高めること、また、医療の分野で社会に貢献することは非常に有意義であると考え、本取組みに至りました。なお、本取組みは強制ではなく、あくまでも希望者・趣旨に賛同いただける方のみを対象としています。

(富国生命内務員組合ハンドブックより ※一部修正)



▲臓器提供意思表示カード
(日本臓器移植ネットワークより)



3 環境保全に関する取組み

温室効果ガスの排出や森林伐採等の環境破壊によって、地球環境の将来が危ぶまれる状況にあります。また、東日本大震災以降、電力等のエネルギー使用が見直される中、わたしたちの生活スタイルのあり方も問われています。

生保労連では、地球環境の保護、エネルギー使用の見直しの観点から、節電や省エネを呼びかけるとともに、清掃活動の実施、エコキャップの回収等、持続可能な社会の実現に向けた取組みを推進しています。

① 連合エコライフ21

生保労連では、連合エコライフ21の趣旨に賛同し、2000年度より本取組みに参画し、各組合に協力を呼びかけています。

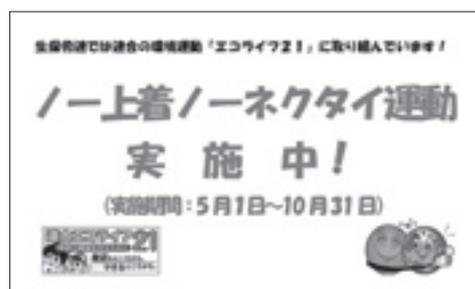
連合エコライフ21とは？

連合は、1998年から環境問題に関連したライフスタイル見直しの取組みとして、連合エコライフ21を推進しています。

待機電力の削減や資源の再利用等、身近なライフスタイルの見直しに関する取組みに加え、東日本大震災以降は、夏期・冬期のピーク時における職場・家庭での節電を呼びかける運動(ピークカットアクション)等を展開しています。

取組み内容については、各組合の判断で決定の上、実施しています。また、生保労連本部では、下記取組みを行っています。

- オフィスの適正室内温度設定(夏28℃ 冬20℃)
- 「ノー上着・ノーネクタイ運動」の実施(労連本部では5月～10月に実施)
- 「節電ポスター」を利用した呼びかけ
- 「マイエコバッグ」利用の推進
- エコキャップ回収運動の推進



▲生保労連本部の入口に掲示するちらし



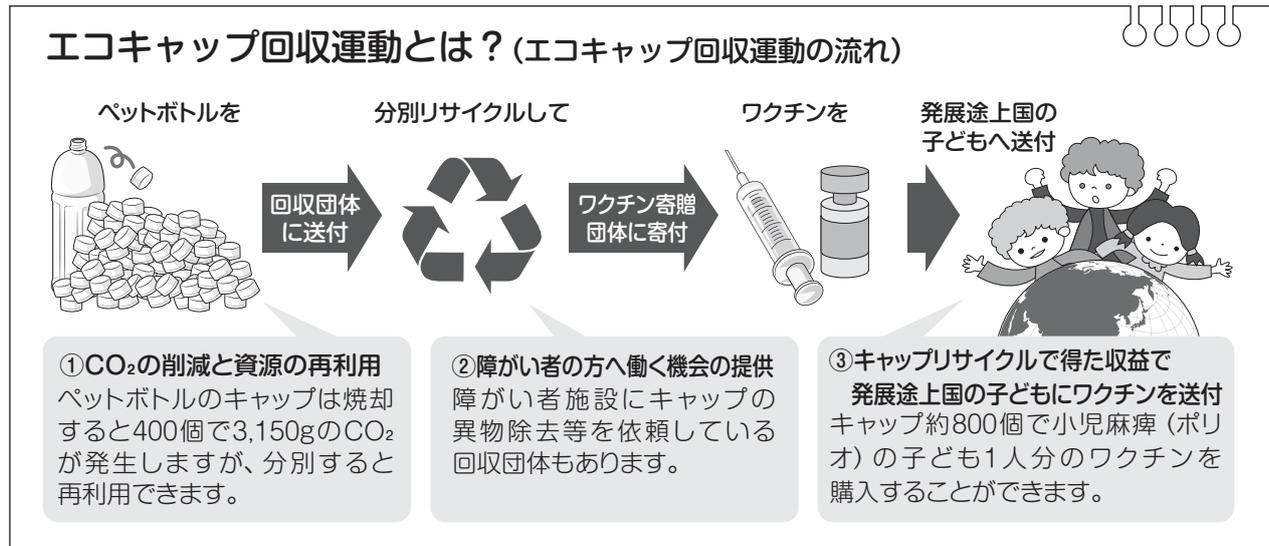
▲できることからはじめようポスター
※ポスターは生保労連ウェブページからダウンロードできます。(http://www.liu.or.jp)



② エコキャップ回収運動

生保労連では2009年より、身近なところから実践できる社会貢献活動として、エコキャップ回収運動を実施しています。本運動は、ペットボトルのキャップの分別・リサイクルを通じて、CO₂削減や発展途上国の子どもにワクチンを送ることなどを目的としています。

生保労連本部では、毎年1回キャップの集約を行い、NPO法人「キャップの貯金箱推進ネットワーク」(※)に届けています。



(※) キャップの貯金箱推進ネットワークとは？

「キャップのリサイクル運動」「ワクチンの寄付」「障がい者施設に仕事を提供」の3つの活動を主に行っている、内閣府から認証を得た特定非営利活動法人です。

(<http://www.capnochokinbako.jp/>)

★1人分のワクチンの値段と必要なキャップの個数

ワクチン	値段(1人あたり)	キャップ必要個数(1人あたり)
ポリオ(小児まひ)	約20円	800個
BCG(結核)	約7円	280個
はしか	約95円	3,200個
MMR(3種混合)	約114円	4,560個
DPT(ジフテリア・百日咳・破傷風)	約9円	360個

★生保労連の取組み結果(過去3年間分)

	集約内容	換算すると
2014年	約12,420個 31.05kg	CO ₂ 削減量 97.81kg ポリオワクチン 15.5人分
2013年	約11,040個 27.6kg	CO ₂ 削減量 86.94kg ポリオワクチン 13.8人分
2012年	約9,720個 24.3kg	CO ₂ 削減量 76.55kg ポリオワクチン 12.15人分



▲キャップの貯金箱ネットワークから送られる実績レポート



▲生保労連で回収したエコキャップを届けた様子

各組合では、本部や支部が主体となって、取組みを行っています。

本部主体で実施している組合	支部主体で実施している組合
ジブラルタ・PGF	アクサ営・朝日・住友・第一・大同労・日本・三井・明治安田・富国外



③ その他の取組み

その他、清掃活動等を通じ、環境保全に関する様々な取組みが行われています。

組合名	取組み内容
朝 日	●各支部で清掃活動を実施
ジブラルタ	●各支部で清掃活動・ボランティア活動を実施
第 一	●各支部で清掃活動を実施
大同労	●各支部で清掃活動を実施
日 本	●会社とタイアップし、全国で取り組んでいる植樹・育樹活動に参画 ●各支部で地域の公園や海岸、支社・営業部近辺等の清掃活動を実施(下段参照)
PGF	●東京湾に浮かぶゴミと建設発生土で埋め立てられた中央防波堤内側埋立地に苗木を植える「海の森プロジェクト」に参加(次ページ参照)
三 井	●営業部周辺等の清掃活動を実施
明治安田	●各支部で営業所周辺の清掃活動を実施

繁華街ミナミでの清掃活動(日本労組 大阪都心南支部営業人材開発室分会)

道頓堀近隣の商店会・組合の方とお話をさせていただき、「行政の清掃が入らない区域があるためゴミが目立ち苦慮している」とお伺いしたことから、月2回、土曜の早朝に清掃活動を所属全員で行うことにしました。

繁華街ということもあり、タバコや飲食物等ポイ捨てされたゴミが非常に多く、ポリ袋5袋程の量になることもあります。慣れるまでは戸惑いましたが、地域の方々から感謝の言葉をいただいたり、ゴミの無くなった街を見ると非常にやりがいを感じます。

(ユニオンネット527号《2010年11月号》より ※一部修正)



▲清掃活動の様子

海の森プロジェクト(PGF労組)

海の森プロジェクトとは、東京湾に浮かぶゴミと建設発生土で埋め立てられた中央防波堤内側埋立地に苗木を植え、美しい森に生まれ変わらせる計画です。苗木は市民や民間企業からの募金によって調達・植樹します。面積約88ヘクタール(日比谷公園の約5.5倍)の埋立地に、スダジイ、タブノキ、エノキ等の苗木を48万本植樹する計画です。海から都心に向かう風の道の起点となるとともに、CO₂を吸収して地球温暖化を防ぎます。

PGF生命では、毎年10月第1週の週末に開催されるグローバル・ボランティア・デーの一環として、社員とその家族が海の森プロジェクトに参加しています。スタッフから説明を受けた後、黙々と硬い土を掘り、1人10本以上の苗木を植えました。

(ユニオンネット553号《2013年1月号》より ※一部修正) (「海の森」Umi-no-Moriホームページより)



▲植樹当日の様子

三浦海岸清掃活動(生保労連)

生保労連では、年1回開催している主に組合新役員を対象とした研修「ユニオンジャンボリー」のプログラムの一環として、海岸清掃活動に取り組んでいます。



▲海岸清掃に参加した組合員の皆さん



▲海岸清掃の様子



Ⅲ | おわりに

生保産業は公共性が高く、かつ日々の業務の中で地域社会と密接に関わっています。このような産業で働く者だからこそ、地域社会に積極的に貢献していくことが求められています。また、昨今、子どもや女性、高齢者をめぐる悲惨な事件や事故が多発する中で、ますますその期待が高まっています。

生保労連としても、先述の「Newチャレンジ宣言」の考え方に沿って各組合とさらなる連携強化をはかりつつ、社会貢献活動の充実に向けた取組みを一層進めていきたいと考えています。

また、機関紙「ユニオンネット」等で各組合の取組みを紹介することを通じて、組合員の社会貢献活動に対する意識の醸成一層はかかっていきたいと考えています。



▲地域における取組み事例紹介(オープンセミナー高松)の様子

地域社会や国際社会では、社会貢献活動への参加がまさに求められています。生保労連25万名の組合員一人ひとりが、社会貢献への意識をさらに強くもち、積極的に推進できるよう、この「社会貢献活動取組み事例集」を有効に活用していただければ幸いです。



The background features a stylized illustration of a landscape. It includes various types of trees (some with red trunks and green foliage, others with green foliage and brown trunks), several houses with red roofs, and a tall, multi-story building with a red roof. The scene is set against a light green background with white curved lines suggesting a path or a boundary.

社会貢献活動 取組み事例集

生保労連加盟組合

アクサ生命営業社員労働組合

アクサ内勤社員労働組合

朝日生命労働組合

ジブラルタ生命労働組合

住友生命労働組合

生命保険協会従業員組合

第一生命労働組合

大同生命内務従業員組合

大同生命労働組合

太陽生命内務員組合

T&Dフィナンシャル生命労働組合

日本生命労働組合

富国生命内務職員組合

ブルデンシャル ジブラルタ ファイナンシャル生命労働組合

ブルデンシャル生命内勤社員組合

マニユライフ生命労働組合

三井生命労働組合

明治安田生命労働組合

富国生命全国外野倶楽部（オブザーバー加盟）

全国生命保険労働組合連合会（生保労連）

〒113-0034 東京都文京区湯島3-19-5湯島三軒坂ビル

TEL 03-3837-2031 FAX 03-3837-2037 URL <http://www.liu.or.jp/> (2015年1月発行)